

先日都内で開かれた某メーカーの研修会に遅れて来られた、何処かの見知らない社長？は偶然にも会議後の懇親会の席上でも隣り合せとなりました。彼は私が聞きもしないのに店の経営をとくとくと話してくれました。

「都内はまだまだ地価も家賃も高いので、私は店舗を持って居りません。」と言うので、私が「お店がなくどう商売されるのですか？」と聞きますと「私の店舗はトラックです。私の会社は、正社員は私と妻だけです。伝票と経理事務は近所の奥さんに年間委託、毎日の品揃え仕入れはもう一人の近所の奥さんにパートをお願いしてあります。こうした会社ですからこの様な会議にはなかなか時間通りに出席できないのです。」—「車も駐車場代(月6万円?)も高いので電車で3つ位先の駅の安い駐車場を借りて必要に応じて取りに行きます」と言う。—「午後はこのトラックへと商品を積んで、都心の繁華街に車を停めて、御用聞きしては納品をしております。都内はお店が終わるのは朝の4時頃ですから、集金を終えて家へ着く頃は夜が明けます。でもね!!私は月給100万円以上もらっています。」語尾に力が入って居りました。私はそんな商売もあるのかと思わず黙ったままうなずいて居りました。

ちょうどこの原稿をここまで書き終えた、4月15日朝7時NHKニュース番組の「街角情報」が目に入りました。

丸の内のビル内のオフィスを、キャリーカーを曳いて果物を売り歩く姿でした。この青果会社には既に100人の曳き売り専従者が居るそうです。

次の画面には世田谷市内でリヤカーを曳いて豆腐を売り歩く懐かしい姿でしたが、この豆腐屋さんはアンテナショップの役目もあって本部のコンピューターとつながっており、豆腐以外にも市民のニーズに応えた品揃えを次の日のリヤカーに積むのだそうです。

つい先日、浜田防衛大臣と市ヶ谷でお会いした帰りに、浅草の公園通りを歩きました。この通りは飲食街通りであり、表通りと違って古びた通りであります。この日は初夏の様な日射しの強い日でありました。十数軒並んだ軒先は、幅1メートル程の1枚の布の日除けでつながり、路上にテーブルやイスが置かれ多くの客が談笑しながら飲食をされておりました。中国の長卓宴(長街宴)の様な景観でありました。新潟など雪国へ参りますと雪除けの庇が商店街の一体感を作っている様に、この浅草公園通りの飲食街に同じ風景を発見いたしました。

今年の夏は君津でも、初夏から晩夏にかけて戸外で飲食店街はピヤガーデンを開き、物販店は新しいイメージのアウトレット(一賞味期限近いもの、少し流行遅れの品など)に挑戦してみませんか。

丸の内のビル街にもワゴンが歩道に置かれています。結果を思うより、現代は先手必勝の気概も必要であります。

今年の浅草三社祭りは5月15、16、17日です。あの凄まじいエネルギーを見てきて下さい。